

ゼネラリスト？スペシャリスト？それとも

(社) 埼玉県放射線技師会

副会長 堀江好一



明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかに新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。また日ごろより本会に対する暖かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

最近、試験や検定が増えている。本会は平成12年度から胸部・上部消化管・乳房撮影などの認定制度を開始した。当時は全国的に見ても、モダリティ別の認定試験はまだまだ少なかったと記憶しているが、次第に学会や組織が独自に検定を行い、認定する資格が増えてきた。すると今度は同じモダリティでも複数の組織が別々に認定する資格が増え、一体どの資格を取れば良いのか分からない、というジレンマに陥っている方々も少なくないと思う。

検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師の認定を契機として、次第に複数団体で共通の資格というのが増えてきた。これは受験する側からしても歓迎できることだと思う。それにしても我々の業務に関係する検定や認定は数が多い。しかも期限付きの認定であることが多く、更新するためには学術大会や講習会に参加をし、ポイントを稼がないと更新もままならない。さて、このような状況下で何をどれくらい受験すればよいのか。

最近よくゼネラリストとスペシャリストどちらを目指すかという言葉を目にする。なんでも屋と専門家と言えば専門家のほうが響きは良い。

でも私は、職業人としてプロフェッショナルを目指して欲しいと思う。

プロフェッショナルの定義は何だろうか。プロフェッショナルとそれ以外の人を分ける決定的な

違いは、顧客第一を貫けるかどうかだ。すなわちプロフェッショナルとは、顧客に対して責任を持つ人である。ところが、世にある定義の大半は、最重要の顧客を忘れ、知識や技能の優劣ばかりを論じている。

顧客主義を貫く以上、プロフェッショナルはそれにふさわしい専門知識と能力を持つ必要がある。なかでも目の前にある前人未到の問題に対して、自分でアプローチを決め、解決に導く具体案を示す問題解決力が欠かせない。あきらめずにやり抜く継続性と高い倫理観も求められる。(大前研一「誰でもプロフェッショナルを目指せる」より)

これは、IT系のコラムから引用したものであるが、そのまま我々の業界にも当てはまると思う。

本会主催のフレッシュセミナーなどで、「プロフェッショナルを目指してください。」と訴えてきた。プロフェッショナルになるには、広い視野を持つゼネラリストの能力と、高い専門知識を持つスペシャリストとしての能力、両方が欠かせないだろう。スペシャリストで満足せず、そこからさらにプロフェッショナルを目指したいものだ。

では何を勉強し受験しようか。自分の置かれている職場環境の中でプロフェッショナルとして患者さんや医師を満足させることができる資格を優先してはどうだろう。例えば、Aという資格とBという資格、どちらを受けようか迷ったら、自分自身が、より一層現場に還元できる資格を取れば良いと思う。また個人ではなく組織として「医療被ばく低減施設認定」や「マンモグラフィ検診施設画像認定」を取得することもプロの仕事といえるのではないかと思う。

資格マニアになる必要はない。